

<p><b>【園目標】</b> よく考え みんな仲良く 元気な子</p>	<p><b>【前年度の成果と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に異年齢が交じり合い、五感をつかって戸外で元気に遊ぶ時間と場の確保を行い、充実させていく。</li> <li>・室内遊びやクラスの課題活動、生活等における目標や内容についての発信が少なかった。保護者と子どもの発達を共有しながら、家庭育児に活かせる情報発信に努め、園と家庭とが、協同的な子育てを行えるようにする。</li> <li>・子どもが音楽により親しめるよう、保育者の指導力を高める。</li> </ul>
--	--

4段階評価 ○保育者☆関係者

観 点		短期目標(評価項目)	自己 評価	保護者 評価	評価及び意見の概要
子どもへの保育・教育	身体的発達	外遊びや運動遊び等様々な活動を楽しみ、丈夫な心身が育つ。	3.1	3.9	<p>○体操やリズム遊び、サーキット遊び等、子どもたちが無理なく楽しく体を動かして遊べるよう戸外や室内の環境設定をすることで、自ら喜んで取り組むようになった。</p> <p>○継続的に遊ぶことで苦手意識が減り、新しい遊びや少し難しいことにも目標をもって挑戦する姿が増えた。</p> <p>○チャレンジカードを取り入れたことで、根気よく取り組むことができ、意欲や集中力が高まった。</p> <p>●行事が続き、良い気候の時に園外保育に行くことが難しかったため、計画的に行っていく。</p> <p>☆体を動かす遊びは、園児の心身を育てるため、今後も計画的な実施を継続してほしい。</p> <p>☆遊びの中で自分で危機回避できる身体を作るためにも、これからも戸外遊びを積極的に取り入れていってほしい。</p>
	社会的発達	他クラスや異年齢の友達や保育者などに親しみを持ち、多様な人と関わるのが好きになる。	2.7	3.7	<p>○同じ時間帯に園庭で一緒に遊ぶ中で、年上の子の遊びに興味を示し、挑戦する姿が見られるようになった。また一緒に遊ぶことで、異年齢の子に憧れや親しみ、思いやりの気持ちが育まれた。</p> <p>○運動会や発表会で異年齢から刺激を受け、取り入れたり真似をしたりして遊びが広がった。</p> <p>●学年ごとの活動や様々な行事が優先するため、日常的な異年齢の交流を年間バランスよく行うことができなかった。年間を通し、計画的に交流していきたい。</p> <p>☆友達時にはトラブルもありながらも、それを自分たちで解決しながら仲良く遊ぶことができるようになった。</p> <p>☆異年齢交流が地域で失われている昨今、家族以外の子どもと交流しつづかり学べる場でもあるので、様々な活動を企画していってほしい。</p> <p>☆小さいながらも、一人一人が自分の思いや考えを持っているので、その思いや考えをじっくり聞く姿勢を大切にしてもらいたい。</p>
	精神的発達	自分の興味ある遊びをする中で、試したり、工夫したり、考えや思いを表現したりする。	2.9	3.8	<p>○実際に自分が経験したことを描いたり、季節に合った製作活動を取り入れたり、歌や楽器に親しんだりしたことで、のびのびと表現する楽しさを味わえるようになった。</p> <p>○子どもが『やってみたい』と感じた時に、すぐに遊ぶことができるよう環境を整えたり、保育者が見本となって遊ぶことで、夢中になって遊ぶ姿が増えた。</p> <p>○自己表現することが苦手な子もいたが、豊かな表現が身に付くよう遊びを積み重ねたことで、感じたことをのびのび表現できる子が増えてきた。</p> <p>☆家庭での手伝いも含め、自分でなんでもやってみたいといろいろと挑戦する姿が増えた。</p> <p>☆創造性豊かな遊びを工夫されている。</p> <p>☆自分の頭を使い、手足を動かすことが、精神的、脳科学的に大切であるので、現在の活動を継続していってほしい。</p>
保育者・地域の連携	地域との連携	園は子どもの育ちや保育・教育活動について積極的に発信し、家庭と子どもの育ちを共有しながら協同的な子育てを行う。	2.3	3.7	<p>○学年だよりやドキュメンテーションを通して子どもの姿を発信したり、送迎時にエピソードを伝えたりして、子どもの成長の喜びを共有することで、成長や就学に対する焦りについて言葉にする保護者が減ってきた。</p> <p>○絵画や製作物を送迎の保護者に見えるところに展示し、活動の過程の頑張っている姿を伝えるよう努めた。「見て！」と作品を紹介する子が増え、園で経験したことを家庭で再現して遊ぶ子が増えた。</p> <p>●延長保育を利用している保護者と話せる機会が少ない。定期的に共通理解して話し合えるよう工夫していきたい。</p> <p>☆園の教育・保育について理解してもらい、家庭でも子どもたちに関わってもらえるように発信していけるとよい。</p>
体制全般	危機管理	防災環境を整えたり、園の実状に応じた避難訓練を実施したりして大災害を想定した備えをしている。	2.4	3.8	<p>○専門家による研修を受け訓練を積み重ねることで、全職員の意識が高まり、避難経路が塞がれていないか確認したり、机の向きや午睡時の布団の敷き方を見直したりすることができた。</p> <p>○職員、子ども共に、室内外のどの場所でも、安全な場所を理解して身を守ることができるようになってきた。</p> <p>●長時間に渡る避難の際の職員の動きについて全職員で話し合い、役割を明確にしたい。</p> <p>☆危機管理の体制が整っているので、実際の危機の時に機能するよう訓練を重視してほしい。</p> <p>☆もしもの時でも、家族が慌てないですむ、安心な場であることを望む。</p>

**【次年度に向けて】**

- ・気候や行事を見通し、園外保育や運動遊びを計画的に行えるようにする。
- ・様々な人と関われるよう、クラス以外の友達や異年齢での関りができるような環境を整える。
- ・災害だけでなく防犯も含め、組織的に対応できるような訓練の実施や共通理解に努める。
- ・早朝、延長保育利用児の保護者とのコミュニケーションを充実させる。